Speak-So-Well

Navigator in Production

田中茂範（著）

はじめに

本書で提案するのは NIP（Navigator in Production)という、まとまった内容のことを表現する力を養成するための新しいメソッドです。

まとまった内容は、口頭で話す場合もあれば、文章で書く場合もあります。新指導要領では、the CEFR に倣って、spoken interaction と spoken production を区別しています。spoken interaction では、会話などの「やりとり」が前提になります。一方、spoken production の場合は、ある程度まとまった内容のことを一人で話すということが想定されます。何かを説明する場面であるとかプレゼンテーションを行なう場面がそれに当たります。

「簡単な会話ならなんとかなるが、まとまった内容のことを話すとなるととても無理」と考えている人が少なくないと思います。しかし、真に使える英語力を身につけるには、そこを乗り越えていく必要があります。そこで、本書は、Speak-So-Well の一環として spoken production に注目します。まとまった内容のことを話すといっても、会話の途中で、日本的な何かを指さし、「あれ、何ですか？」と聞かれ、即興で説明する場合（spontaneous speech）もあれば、あらかじめ準備してプレゼンテーションを行なうという場合（planned speech）もあります。ここでは、この両方を想定したナビゲーターを取り扱います（なお、プレゼンテーションについては、Speak-So-Well の姉妹書で扱っています）。

口頭でまとまった内容のことを表現するという場合、内容面に注目すれば、筋の通った流れが求められるでしょう。「筋の通った話の流れ」のことを「話の内容に構造がある」という言い方をすることもできます。そして、筋の通った流れの中で内容を表現していくのに役立つのがナビゲーターです。

「ナビゲーター」といえば、車のナビ（navigation system）を連想すると思います。ナビは、目的地まで誘導してくれる装置です。ナビの指示から逸脱した運転をしても、ルートを新たに提示してくれます。柔軟性のある

「ガイド」だといえます。話や文章も流れ（flow）がある限り、その流れをガイドする何か（ナビゲーター）を表現者は無意識のうちに使っていると考えることができます。話をする場合、まったく無秩序に話しているのではなく、意識的か暗黙裡かは問わないまでも、なんらかの流れの構造のようなものに従っているということです。そうでなければ、話している当人も、自分が何を話しているかわからないでしょうし、それを聴いている人も話の全体像をつかむことができないでしょう。

母語の場合は、話すとか書くという日々の経験を通じて、ナビゲーターのようなものを無意識のうちに獲得し、まとまった内容を表現する際にはその内在化したナビゲーターを暗黙の裡に使っていると考えることができます。ところが、第二言語としての英語を使うという場合には、個々の表現を英語にすることだけに関心が向かい、日本語を通してせっかく身につけたはずのナビゲーター——英語との発想の違いから新たに学ぶ必要のあるナビゲーターもあります——が生かされないということが起ります。そこで、あえて意識的にナビゲーターに注目し、それにしたがった表現のしかたを訓練することで、英語においても、内容のあるまとまったことを表現するこができるようになるはずです。

以上が本書での基本的な考え方です。以下では、11 種類のナビゲーターを紹介します。まとまった内容のことといっても、程度の問題がありますが、ここではプレゼンテーションなどでの発表も考慮し、文章にするとかなり長いものも事例として扱います。内容の多寡にかかわらず、ポイントはナビゲーターです。事例の背後にあるナビゲーターに注意を向けてください。ナビゲーターを意識しながら事例を何度もなぞることが大事です。そして、最終的には、自分でもナビゲーターに従って、英語でまとまった内容を独自に表現するようにしてください。そのための CHALLENGE TASK が各ユニットの最後にあります。「解答」はありませんが、事例を参考にしながら、挑戦してみてください。

田中茂範
PEN 言語教育サービス代表
慶応義塾大学名誉教授

Table of Contents

はじめに……1

NIP の理論的考え方……4

1. 人物を描写する……9

2. 事物・概念について描写する……19

3. 空間描写～風景描写……44

4. 変化を述べる（時系列その１）……53

5. やり方を説明する（時系列その２）……60

6. (過去の)出来事について語る……70

7. 比較し描写する……83

8. 作品を批評する……91

9. 意見を表明する……98

10.問題解決の提案をする……106

11.提案のバリエーション：相手に問題点を指摘する……119

おわりに……124

補論：まとまった内容を表現するためのマインド・マップ……125

NIP の理論的考え方

言語使用の経験から人はさまざまな語りの型のようなものを内在化していきます。謝罪をする場面、提案を断る場面、事故について報告する場面などを考えてみるといいでしょう。事故を報告する場面では 5W1H が重要な情報になります。この 5W1H をカバーする形で報告をするという自然な行為は、ここでいう「表現の型」に従って行われていると考えることができます。

謝罪会見などでは、「ごめんなさい」「申し訳ありません」という謝罪の言葉を表明するだけでなく、謝罪の対象となる行為をどうして行ったかについて釈明を行ったり、二度とやらないと約束したりします。こうした行為が、社会通念上、妥当な謝罪行為になるのです。つまり、「謝罪する」という行為について、人々は≪謝罪［＋釈明］［＋約束］≫という「表現の型」のようなものを共有感覚として持っているということです。同様に、提案を断る場面では、断るだけでなく、感謝の意を示す、断る理由を示すという表現の型が観察されるはずです。

こうした表現の型は「スクリプト（script）」と呼ばれることがあります。スクリプトといえば演劇や映画を連想すると思います。映画などでは、まさに、場面で出演者が発する言葉を記したのがスクリプトです。

実は、このスクリプトはもっと広い意味で使われ、「行動のしかた」にも応用されます。電車の乗り方、飛行機の乗り方、歯医者のかかり方、寿司の作り方、など何回か経験すれば、そのやり方のようなものを身につけます。それがスクリプトです。電車の乗り方ひとつを取り上げても、自動改札導入前と導入後ではスクリプトは異なるはずです。

本書でいう「ナビゲーター」はスクリプトと同義と考えてかまいません。あえて「ナビゲーター」という言い方をするのは、話の流れをゆるやかに誘導する何かという意味合いを強調したいがためです。ナビゲーターに類似したものとして、「テンプレート」というものもあります。しかし、「テンプレー

ト」は、固い型でその型に言語を嵌めるという印象があります。一方、ナビゲーターは柔らかい型で、柔軟性があり、その型で縛られるものではありません。そういう自由度をもった情報の流れの誘導という意味で、ここでは「ナビゲーター」という用語を用いることにします。

ナビゲーターの具体例

ナビゲーターは、何を表現するかという表現タイプによって異なります。人物描写、事物描写、出来事描写、意見表明などがここでいう表現タイプです。ここでは、本文の中から人物描写のナビゲーターを選び、ナビゲーターがどういうものかを示しておきます。人物描写のナビゲーターは、以下のような流れが基本になると思われます。

まず、人物の「外見」について話し、「人柄」に及びます。そして、人柄を表す「行動傾向」を示し、さらに、人物の「評価」を行うという流れがここで示されています。ここでの情報の流れが「ナビゲーター」です。例えば、ジェームスはどういう人物かと問われて、次のように述べたとしましょう。

A: What does James look like? What is he like?

B: Well, he’s tall and handsome. He's friendly, sociable, and outgoing. He's also considerate of other people. I mean, he's the kind of person who'll give his seat to an elderly person even when he's very tired. You see, he’s a nice guy, and I like him.

英語だけに注目すれば、これは何の変哲もない会話例にすぎません。しかし、この B が述べた内容をナビゲーターの流れとして分析すれば、以下のようになります。

① 外見：

Well, he's **tall** and **handsome**.

② 人柄：

He’s **friendly**, **sociable**, and **outgoing**.

③ 人柄の情報追加：

He's also **considerate** of other people.

④ 行動傾向（なぜそう言えるか）：

I mean, he's **the kind of person who**'ll give his seat to someone even when he's very tired.

⑤ 評価：

He’s **a nice guy**. **I like him**.

この分析からいくつかのことがわかります。まず、「 A はどんな人か」について語るというタスクが与えられた場合、外見、人柄、行動傾向、評価といった観点に注目した描写を行うということ。これは、ナビゲーターに沿った人物描写ということです。

次に、well, I mean という言葉に注目してみると、口頭で、そして即興で何かを語る際には、ナビゲーターに沿って表現するといっても、話しながら情報を整理する必要があるため、言い淀み、言い直し、繰り返しなどの軌道修正が自然に行われるということがわかります。こういう軌道修正を行うことを「リペア（repair）」と呼びます。即興でまとまった内容のことを話そうとすると、いくらナビゲーターがあっても、「立て板に水」のように表現は紡ぎ出されないということです。

さらに、人物描写を行うためには、それなりにコマが必要ということです。上の例でいえば、外見を語るには tall とか handsome という単語を知らなければいけません。人柄についても、friendly, sociable, outgoing, considerate という単語を知っておく必要があります。さらに、行動傾向を描写する表現方法として He's the kind of person who …のような言い回しも必要になり

ます。これらの単語や表現のことを Language Resources（LR: 言語資源）といいます。

これらの 3 点を考慮した形で、Navigator in Production (NIP)をモデルとして示しておくと、以下のようになります。

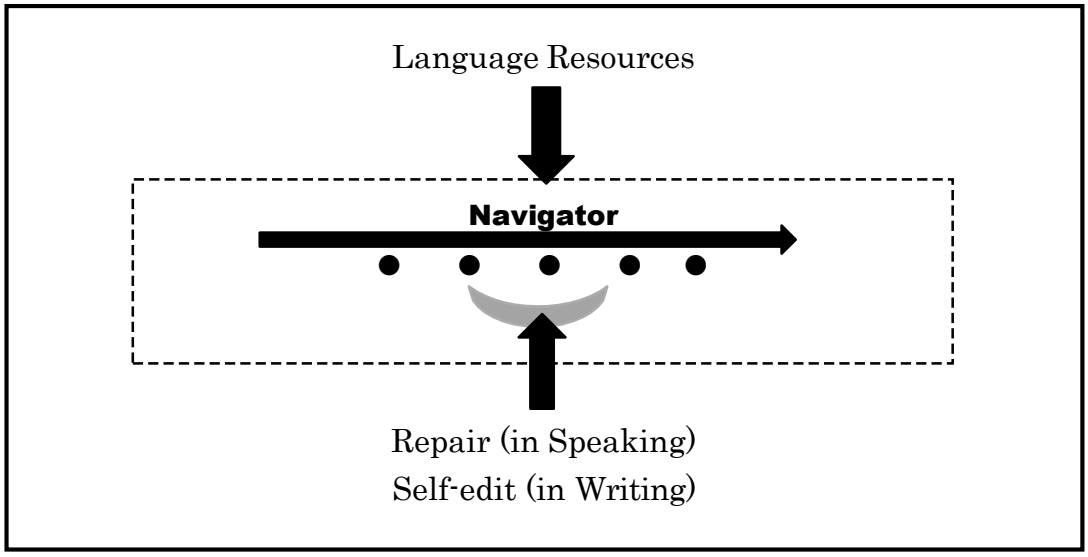

図 1：Navigator in Production (NIP) モデル

なお、上述の通り、口頭では、軌道修正（リペア）をしながらナビゲーターを利用して表現するのが自然です。一方、文章で何かを表現する際には、同様のナビゲーターを使いますが、そこでは自己編集力（self-editing competence）が求められます。文章であるがゆえに、必要に応じて、自己編集（セルフ・エディット）を行うことで、文章を整えることができるということです。

まとまった内容のことを口頭で表現するには、話題を語る “LR”、内容を紡ぎ出すために利用可能な“ナビゲーター”、それに軌道修正をうまく行うための“リペア (repair) ”の３つが必要となります。

ナビゲーターを身につける簡易な方法は、ナビゲーターを意識しながら英文を何度か音読してみることです。例えば、上記の例で試してみましょう。ナビゲーターを口にしながら英語を音読してみてください。

① 外見は？

Well, he's tall and handsome.

② 人柄は？

He’s friendly, sociable, and outgoing.

③ もっというと？

He's also considerate of other people.

④ なぜそう言えるのか（行動傾向は）？

I mean, he's the kind of person who'll give his seat to someone even when he's very tired.

⑤ どう評価する？

He’s a nice guy. I like him.

いかがですか。「外見は？」といって、Well, he's tall and handsome. と続ける、「人柄は？」に対して、He’s friendly, sociable, and outgoing. と応ずる、といった具合に読めたでしょうか。これを何度か繰り返してみましょう。そうすると、情報の流れをつくるナビゲーターの働きが実感でき、それが内在化されていくと思います。

このようにして表現の型を押さえて、次に、自分でナビゲーターを手掛かりに、ある特定の人について人物描写を行ってみるのです。もちろん、ナビゲーターはゆるやかな整流器のようなものなので、アドリブを加えたり、変化をもたせたりすることも可能です。むしろ、ナビゲーターを基本の型としつつ、それに自在に変化をもたせることができるようになると、真の英語表現力に繋がっていくと思います。

では、はじめましょう！

SCAN ME

Navigator in Productionの関連動画

Navigator 1 人物を描写する

「君のおじさんはどんな人か」とか「君の上司はどんな感じの人か」という問いに対して、英語で応じるのが人物描写です。人物描写のナビゲーターは、どんな展開になるのでしょうか。

Photo by Library of Congress on Unsplash

人物描写で外見に注目する場合、英語での質問は What does he/she look like?となり、人柄に注目したい場合は What is he/she like？となります。ここでは、外見や人柄をまとめて人物描写に含むという前提で、ナビゲーターを考えます。

すると、人物描写のナビゲーターは、以下のようになります。

外見	人柄	行動傾向	評価
What does he/she look like?	*What is he/she like?*	*What does he/she do in what situation?*	*How do you feel about him/her?*

本書で示すナビゲーターは、基本形というべきものですが、それが唯一のものというわけではありません。実際の場面では、さまざまな応用や変化形も使われます。本書で示すナビゲーターをマスターすれば、いろいろな応用も可能になるはずです。

以下の事例は、「NIP の理論的考え方」でも取り上げたものですが、ここでも再掲します。ナビゲーターを口にしながら、英文を音読してみてください。

Task 1: Describe your uncle James. What does he look like? And what is he like?

① 外見は？	Well, he's **tall** and **handsome**.
② 人柄は？	He’s **friendly**, **sociable**, and **outgoing**.
③ もっと言うと？	He's also **considerate** of other people.
④ なぜそう言えるのか（行動傾向は）？	I mean, he's **the kind of person who**'ll give his seat to someone even when he's very tired.
⑤ どう評価する？	He’s **a nice guy**. **I like him**.

このように、人物描写のナビゲーターは外見、人柄、行動傾向、評価の４つのステップで構成することができます。そこで、それぞれのステップについて表現するための言語資源（LR）が豊富であれば、表現もそれだけ豊かなものになります。ここでは、LR のいくつかを具体的に紹介しておきましょう。

外見描写

まず、What does he/she look like? の問に答えるには、「外見」についての表現（LR）が必要となります。以下がその例です。

LR: 外見描写の表現（主に形容詞）

- tall 背が高い
- short 背が低い
- medium height 中ぐらいの背丈の
- muscular 筋肉質の
- feminine 女っぽい
- flabby たるんだ
- good-looking 器量のよい
- gorgeous 華麗な
- graceful 優美な
- lovely 愛らしい
- manly 男らしい
- medium build 中肉中背の
- stocky ずんぐりした
- plain 飾り気のない
- thin / skinny がりがりの
- plump ふっくらした
- fat 太った
- slender 細身の
- slightly-built 華奢な
- slim スリムにやせた
- regal 堂々としている
- young 若い
- old 高年の
- middle-aged 中年の
- have brown eyes 黒い目をしてる

以下は、外見描写の例です。特に、外見の描写に関する表現に注目して読んでみましょう。

どんな人を目撃したかと問われて：
「はい、角のところで男をみました。黒の T シャツと白のズボンでした。大柄な人ではありませんでした。中ぐらいの背丈で筋肉質でした。確かではありませんが、丸い顔で浅黒かったです。20 代か 30 代にみえました。あっちのほうに歩いていきました」
Yes, I saw a man at the corner. He wore a black T-shirt and white pants. He was **not** a **big** man. He was **medium height** and **muscular**. I'm not sure, but I think he **had an oval face** and **a dark complexion**. He **looked in his twenties or thirties**. He walked off in that direction.

人柄描写

次に、What is he/she like？という問に応じるように、「人柄」を描写するわけですが、そのために必要となる LR は以下のようなものです。少し多めに形容詞をリストしておきます。「誰だれさんは adventurous だ」「あの人は agreeable だ」といった具合に、それぞれの形容詞に当てはまるような人物を思い浮かべてみると印象に残りやすいでしょう。

人柄描写の形容詞群

LR: プラスの側面

- adaptable 順応の利く
- adventurous 冒険好きな
- agreeable 愛想のよい
- big-hearted おおらかな
- brave 勇敢な
- calm 穏やかな
- charismatic カリスマ性のある
- cheerful 陽気な、元気のいい
- considerate 思いやりのある
- cooperative 協力的な
- courageous 勇気のある
- diligent 勤勉な
- dependable 頼りがいのある
- down-to-earth 気取りのない

- energetic　エネルギッシュな
- fair　偏見のない、公平な
- friendly　親切な、やさしい
- fun-loving　楽しいことの好きな
- funny　おかしい、ユーモアのある
- gentle　やさしい
- honest　誠実な
- lively　生き生きした
- lovely　愛らしい、すてきな
- meticulous　几帳面な
- outspoken　はっきりものをいう
- patient　辛抱強い
- reliable　頼りがいのある
- responsible 責任を果たせる、信頼できる
- sensible 分別のある
- strongminded 心の強い
- thoughtful　思慮深い
- witty　ウィットに富んだ

LR: マイナスの側面

- arrogant 傲慢な
- bad-tempered 怒りっぽい
- childish 子どもっぽい
- condescending（下の者を）見下すような
- demanding 多くの要求をする
- grumpy 怒りっぽい
- horrible 下品な、ひどい
- impolite 礼儀知らず
- impudent ずうずうしい
- inconsiderate 気が利かない
- jittery 神経質な
- lazy 怠惰な
- mean 意地悪な
- moody 気分屋の
- nosy せんさく好きな
- nervous 神経質な、臆病な
- obnoxious タチの悪い
- overly friendly なれなれしい
- rude 不作法な
- selfish わがままな
- shameless 恥知らずの
- sly / sneaky ずるい
- snobbish 俗っぽい
- stingy けちな
- temperamental 天気屋の
- testy 短気、怒りっぽい
- thoughtless 思慮に欠ける
- unpunctual 時間にルーズな
- unreliable 頼りにならない
- unsociable つき合いの悪い
- uptight 神経質な、ピリピリした
- vulgar 下品な
- wicked 邪悪な